



医科大付属病院がスタート

受付は8時30分から11時

無医大県解消という国の方針と県民の切望によって、昭和五十二年から建築されてきた国立高知医科大学の諸施設がこのほど竣工、付属病院も開院して十月十二日盛大な式典が行われました。

高知県文化のふるさと岡豊城跡西側の静かで広大な敷地（約二十一万平方米）に、延べ七万平方メートルの巨大な建物が並んで、文字通り「高知県の医療のセンター」としての偉容を誇っています。

現在は大学生四百人、教職員五百六十人で運営され、付属病院は医師約百人、十八科、ベッド数三百二十（最終六百）で十月十九日から診療が始められています。

病院の特色は、患者を最優先することをねらって、予約、診療、検査、病歴までがまとめられた最新の装置がおかれ、待ち時間が大幅に短くなっています。

診療の受付は、毎日（月曜、土曜）八時三十分から十一時までですが、各診療科によって、手術

などの都合がありますので、はじめての方は、あらかじめ電話で聞いておいてください。

病院への「足」は、残念ながら後免からのバスの便はありません。（高知市からは、県交通、土電が乗り入れています）。

診療科目は次のとおりです。

- ①内科（三科） ②老年病科
- ③小児科 ④神経科精神科
- ⑤皮膚科 ⑥放射線科 ⑦外科（二科）
- ⑧麻酔科 ⑨産科婦人科 ⑩整形外科
- ⑪眼科 ⑫耳鼻咽喉科 ⑬脳神経外科
- ⑭泌尿器科 ⑮歯科 ⑯口腔外科。

職員宿舎も、大学西側（蒲原）へ七十戸分三棟、国分川をはさんだ南側中島へ八十戸分四棟、また構内に看護婦宿舎八十戸分がそれぞれ完成、学生、職員のご家族あわせて約六百人が南国市民に仲間

入りされています。

十月十九日の診療受付初日には、午前七時開門に対して、四時頃から訪れ、八時過ぎには、広いホールの九十のいすが満席、補助いす五十が出され、職員約十名が診療申込書への記入の指導に大わらわ。八時半と同時に受付が始まり、アナウンスによって呼び出された方は、次々に各科へ出向いていました。初日の診療者数は二百八十五人で、大学側の予想の二倍と大きくふくらみ、患者の期待の大きさを表わしていました。

